

# 「明治150年」関連施策 絵画パネル「岩倉大使欧米派遣」を象の鼻パークへ設置しました！

平成30年（2018年）が明治元年（1868年）から起算して満150年にあたることを記念した「明治150年」関連施策の1つとして、横浜開港の地である象の鼻パーク内に明治期当時の港の様子とともに岩倉使節団が出発する姿を描いた絵画パネル及び説明板を、平成30年4月19日（木）に設置しました。この設置により、開港都市横浜の原点とも言える明治期の先人のたゆまぬ努力や挑戦の精神に光をあてるとともに、ミナト横浜の一層の賑わいを創出します。

## 概要

岩倉具視を全権大使とする欧米使節団が、1871年（明治4年）に横浜象の鼻地区から出発した様子を描いた絵画パネル「岩倉大使欧米派遣」（山口蓬春画）、及び日本近代化の出発点となった欧米使節団の説明板を設置しました。

絵画パネル・説明板イメージ



幅 165cm × 高さ 240cm

幅 88cm × 高さ 240cm

※絵画パネルの原画について  
「岩倉大使欧米派遣」  
山口蓬春画  
聖徳記念絵画館所蔵

※説明板の文章全文は、  
裏面を御参照ください。

位置図・平面図



お問い合わせ先		
教育委員会事務局生涯学習文化財課長	重松 馨	Tel 045-671-3236
港湾局賑わい振興課長	有路 益義	Tel 045-671-2874

（裏面あり）

### 日本近代化の出発点 象の鼻 —岩倉大使欧米派遣—

#### 象の鼻から欧米へ

明治4年11月12日（1871年12月23日）、国の命運をかけて特命全権大使岩倉具視、副使木戸孝允、大久保利通、伊藤博文ほか、同行者を含め100余名の岩倉使節団は、欧米へと汽船アメリカ号でここ「象の鼻」から出航しました。その目的は、幕末に欧米諸国と締結した不平等条約の改正交渉をすることと、欧米の国家制度や産業技術などを学び日本の近代化を急いで進めることでした。使節団、随員そして同行した若き留学生たちは、それぞれに壮大な夢と強い使命感を持って海を渡りました。

#### 欧米諸国の文明に触れて

使節団は、当初10ヶ月の予定のところ、1年9ヶ月の月日を費やし帰国しました。

条約改正交渉には至らなかったものの、欧米の制度、技術、文化に直接触れ、新しい国づくりの必要性を強く自覚し、日本の近代化を急速に進めることとなりました。また、同行した留学生たちも、様々な分野で欧米の最新の知識や学問を日本にもたらし活躍しました。

日本近代化の青写真を創った岩倉使節団の壮大な旅の出発点ともいえる「象の鼻」は、現在も当時と変わらない場所にその姿を残しています。